

学術情報センターだより

Library and Information Technology Center, Nagoya Women's University

研究におけるデータベースの利用

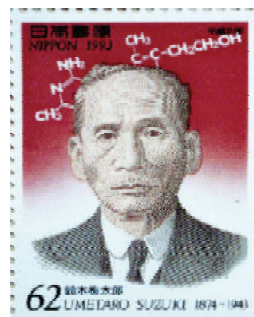
佐野 満昭 (大学院・生活学研究科 研究科長)

社会の様々な情報についてのデータベース化が急速に進んでいます。一方、オリジナリティーの高い研究をするためには、関連する情報を内外のデータベースから、いかに早く入手し、それを自身の研究に生かす能力も求められます。かつて、国際学会は、世界における関連分野の最新の情報を得るための最も有益な場でありました。しかし、インターネット社会の今日では、データベースを検索することで、はるかに多くの情報を簡単に得ることができることから、国際学会に参加する目的が、研究情報の収集から、研究者間の交流などに比重が移りつつあります。

さて、「ビタミン」を知らないヒトはいないと思いますが、この言葉は、1911年、ポーランドのフンクという学者が、食事にその成分が欠乏すると発育障害を引き起こすことを発見し、バイタル（生命に必須の）アミン（塩基）という意味で、ビタミンと命名したのが最初です。発見した成分はビタミンB₁でした。ところが、彼の発見の1年前の1910年にすでに、日本人の学者（鈴木梅太郎博士）が、日本の風土病とも考えられていた脚気の予防薬として、米糠からこのビタミンB₁の結晶を取り出すことに成功し、学会で発表していたのです。そしてその名前を、稲の学名にちなんでオリザニンと命名しました。しかし、その成果を欧文として発表したのが、その2年後であったことから、命名の栄誉はフンクのものとなってしまいました。今ならば、その発見はリアルタイムで、世界を駆け巡ることでしょうから、おそらく、ビタミンは、オリザニンとなっていたかもしれません。なにしろ、90年以上前のこと、それも当時のヨーロッパからみれば、遠い極東

の小国、日本でのこと、発見の情報が伝わることはなかったのでしょうか。最近では、日本で発行される研究雑誌の多くも、英文の要旨がデータベース化され、インターネット経由で世界中で瞬時にみることが出来ます。本学の学術情報センターでも、EBSCOhostをはじめとして、いくつかのデータベースが、学生や教職員に提供されており、学内の研究室の端末から、その情報を簡単に入手できます。雑誌によっては、要旨だけでなく、論文内容のすべてをダウンロードできるものもあります。

さて、本学では、来年度、食物栄養学科に博士課程を設置するための準備が進められており、これまでの修士課程とともに、大学院組織のより一層の充実が図られつつあります。また、より高度な知識や技術をもつ人材を求める社会の要請もあり、学部卒業後、あるいは一度社会に出てから、大学院へ進学する学生が増えています。卒業研究や大学院で必死に取り組んだ研究成果のいくつかはまとめられ、学会や雑誌に発表されることでしょう。そして、いつの日か、彼女達が母親として、子供と一緒にパソコンをたたきながら、自分の名前が載っている学術雑誌のデータベースを検索し、「お母さんも学生時代はこのような研究をしていたんだよ」「お母さんてすごいんだね！」などの会話で話がはずむことでしょう。



◎ 目 次 ◎

研究におけるデータベースの利用.....	1
DVD-ROM版『婦人画報』.....	2
学術情報センターがサポートする授業支援の紹介.....	3
ライブラリー館内のマルチメディア端末が活用されています.....	4
ゼミ指導実施/館員が薦める一冊.....	5
平成16年度学術情報センター利用状況.....	6・7
お知らせ.....	8

DVD-ROM 版『婦人画報』

遠山 佳治 (歴史学:生活文化史)

今も書店の店頭で並ぶ『婦人画報』(アシェット婦人画報社発行)は、女性の間では安定した人気を保っており、今年で創刊100周年を迎える、日本で一番の長寿婦人総合雑誌である。昨年には、創刊号から戦前終刊号までの原本500冊、約11万5880頁が画像データとしてデジタル化され、DVD-ROM8枚に収録された。学術情報センターでは、女子教育・女性文化にとって貴重なこの画像データを入手したため、ここで紹介をする。

◎ 創刊から現在までの変遷

明治38年(1905)7月に、国木田独歩によって近事画報社より創刊された。日露戦争の勝利という時代背景の中で生まれたものの、売れ行きはよくなく、独歩はその責任を負って独歩社を設立して『婦人画報』を一手に引き受けた。しかし、独歩社は行き詰り、独歩社の島田義三・鷹見久太郎が編集者となり、『東洋婦人画報』と改め、東京社として再出発を図った。明治42年に再び『婦人画報』に戻し、第二次世界大戦中に一時『戦時女性』と称したが、戦後は『婦人画報』として現在まで続いている。

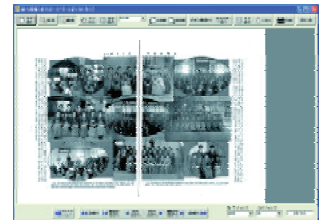


◎ 『婦人画報』の特徴

従来の婦人雑誌と異なり、雑誌の約3分の1を挿絵・グラビア写真で占める画報雑誌の形式が一番の特徴であり、婦人界の活発な諸活動を視覚で訴えている。「家庭の中の女性」と「女性の社会進出」という両視点がうまく混ざり合っており構成されている。和装から洋装への変化など、写真より各時期のファッションや趣味・娯楽(映画・音楽・演劇・スポーツなど)の流行を一目でうかがい知ることができる。その他、女流作家中心の文芸欄も充実しており、食品・百貨店などの広告も興味深く、各時期の社会生活を知る第一級資料といえよう。

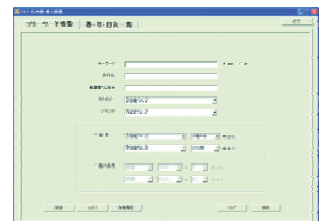
◎ 女子教育と『婦人画報』

創刊号には、大隈重信の祝言に続き、4年前に開校した日本女子大学の創立者成瀬仁蔵「女子教育の方針」が並ぶ。その中で、社会や家庭の中で男性に委ねられている事業でも女性の職務としてその経営を行なうことが多くあり、そのための女性の能力を養う目的が女子教育であるという主義が唱えられている。このように、女学校についての記載は多く、創刊号だけでも、日本女子大学をはじめ、東京女学校・女子美術学校・公立女子職業学校・跡見女学校の東京の女学校が登場する。明治41年には、37の女学校案内が載っている。残念ながら、『婦人画報』が東京中心の編集のため、全体を通じても名古屋の女学校の記事は登場しないが、本学名古屋女学校開設の3年後にあたる大正7年(1918)「名古屋女の印象」(149号)では、名古屋の女学生は他の土地にくらべ身なりや気風が著しく質素で着実であると記されている。



◎ DVD-ROM 版『婦人画報』の機能

デジタルデータの強みとして、検索機能をあげたい。ちなみに、女学校では534項目を、名古屋では11項目が挙がった。カテゴリー・ジャンル欄が、画報、読物(社会・社交、修養・教育、家庭、服装・流行、思潮・随筆、漫画・漫文、その他)、表紙、広告などと分類されているので、画面で資料を表示する前に、かなり内容で絞り込むことができる。パソコン上の操作も簡単で、デジタル画面もきれいで、拡大・縮小もできる。もちろん、プリンターに繋げば、印刷もできる。実物の『婦人画報』を見ようとすると、運び出すだけでも重く大変であるが、このDVD-ROM版『婦人画報』では、気軽に扱えることが一番の利点といえよう。



このような、素晴らしくて貴重な資料を、ぜひ学生・教職員の皆様方に、ご利用いただければと思います。

請求記号：367/1975/1.2 配架場所：汐路 AV コーナー
参考文献：監修中島邦『日本の婦人雑誌—明治編』(1986年、大空社)

◆ 学術情報センターがサポートする授業支援の紹介 ◆

学術情報センターでは様々な授業支援を行っています。今回はIT技術を活用した支援システムについてご紹介します。

1. E-Learning システム (WebCT)

WebCTとは、学内からだけでなくインターネットに接続された自宅のPCからも講義資料の参照や課題の提出、オンラインでのテストが受けられるシステムです。(図1) 利用方法については学術情報センターだより45号をご覧ください。

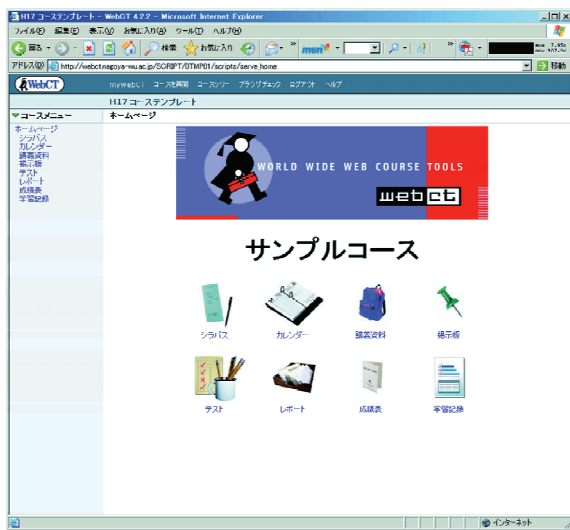


図1

学外からWebCTを利用する際には、以下の点について気をつけなければなりません。

- (1)インターネットカフェなどでは利用しないでください
インターネットカフェなどの不特定多数が利用するPCではスパイウェアと呼ばれるソフトウェアが入っていることがあり、入力したIDとパスワードが記録され他人に利用される可能性があります。他にもクレジットカードの番号等は入力しないようにしましょう。
- (2) Virus 対策をしてください
WebCTを利用すると自宅からレポートの提出が可能になりますが、自宅のPCがVirusに感染している場合、提出したレポート経由でVirusが他のPCに感染する可能性があります。必ず自宅のPCにはVirus対策ソフトを導入してください。

(3)環境の違いについて

学内の演習室は、OSや各種ソフトウェアのバージョン管理を行っているため問題はありませんが、自宅等学外のPC環境によっては、OSやOffice等のバージョンの違いによって利用できない、もしくは意図した通りに動かない場合があります。その場合はwebct@nagoya-wu.ac.jpまでご連絡ください。

2. リアルタイムでの遠隔授業システム

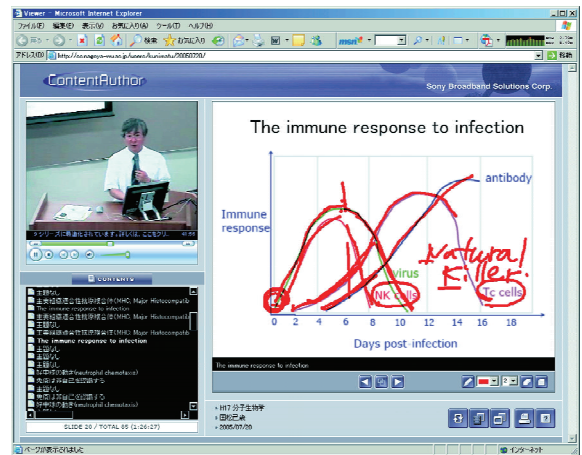
現在、汐路南4、7号館、天白2、3号館の大教室に遠隔授業用の設備が導入されており、さまざまな授業で利用されています。汐路一天白間や他大学とのリアルタイムでの授業が可能になります。



平成17年6月に行われた遠隔授業の様子

3. 講義収録・映像配信システム

講義資料と映像が連動したコンテンツを作成するシステムを導入しました。資料への書き込みを含めた講義内容をあとから繰り返し視聴することが可能です。また配信システムではストリーミング技術を用いているので、資料の好きな場所だけを繰り返し見ることが可能です。



作成したコンテンツ例

4. 今後のサポートについて

学術情報センターでは、これらのシステムを活用し授業の満足度を向上させる取り組みを支援します。

◆ ライブラリー館内のマルチメディア端末が活用されています ◆

今年度よりライブラリー館内に設置したマルチメディア端末の月別利用状況です。設置台数は汐路3台、天白2台です。

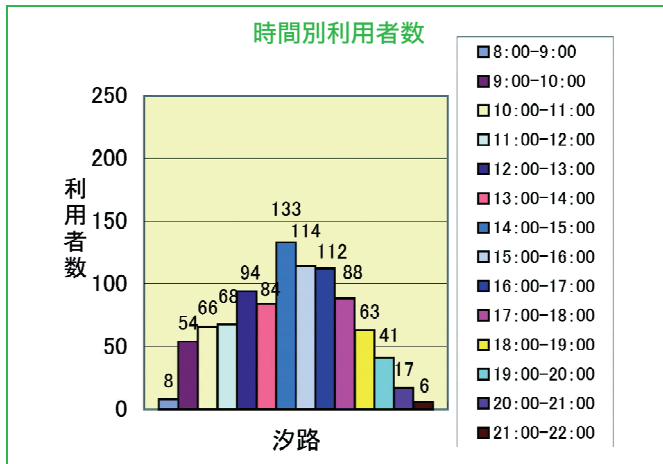
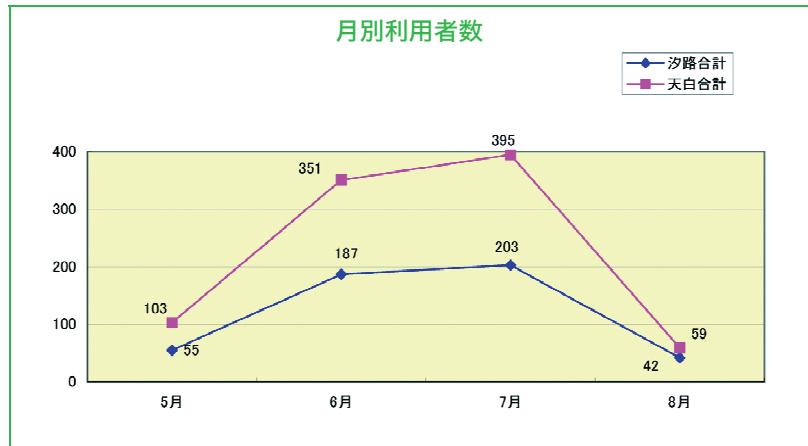
このマルチメディア端末では、Word、Excel、Mail、インターネットなどが利用できます。

パソコン共同利用演習室が授業等で利用できないときや、ライブラリーの資料とWordやExcelを利用してレポートを作成している学生が多いようです。またWebCTに接続し、課題に取り組んでいる学生もよくみかけます。

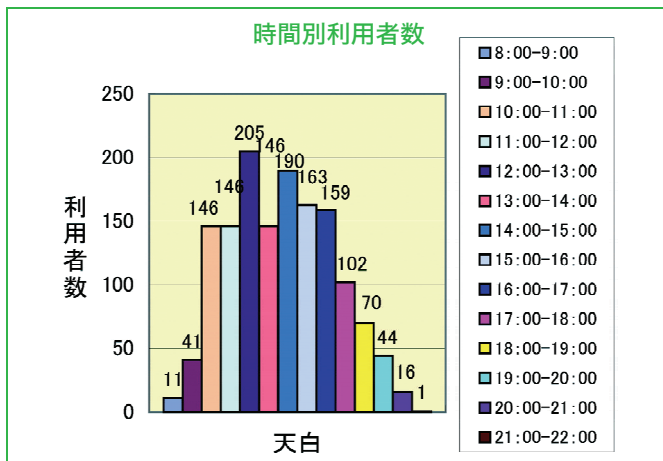
利用件数の合計は汐路487件、天白908件です。時間帯別の利用者数では汐路は14:00～15:00、天白は12:00～13:00と14:00～15:00が特に多いようです。1回の利用時間の平均が、汐路58分、天白35分となっており、館内に併設の情報コーナーにくらべて長時間利用をしている人が多く、じっくりとレポート作成等に取り組んでいる様子が見えます。

マルチメディア端末は、利用手続きなしで利用できます。また、ライブラリー館内ではマルチメディア端末だけでなく、学生証を持っていれば館内貸出用ノートパソコンを利用することもできます。

今後もみなさんの要望に応えられるよう、設備を充実していきたいと思っておりますので、どんどん活用してください。



汐路ライブラリー・マルチメディアコーナー



天白ライブラリー・情報検索コーナー

ゼミ指導実施

ライブラリーサービスでは、ゼミ指導を実施しています。これは、ゼミ生・大学院生を対象とし、論文作成のためのライブラリー活用法を、講義と演習を交えて説明するものです。

申し込みは随時受け付けています。希望日の1週間前までに、ゼミ単位でライブラリーカウンターまで申し込んでください。ゼミ指導は、以下の内容になっています。

■ 事典・文献目録の使い方

あるテーマについてレポート・論文を書く場合、まずそのテーマの基礎知識を得る必要があります。ライブラリーにたくさん所蔵している「基礎知識を得る」ための本を、有効に使うにはどうしたらよいかを説明します。

■ OPACの便利な使い方

検索結果をまとめて確認する機能や、今までの検索結果を使ってもう一度検索できる機能など、OPACのちょっと便利な使い方を説明します。

■ データベースの紹介と使い方

ライブラリーには、パソコン画面で検索して雑誌文献や新聞記事を調べたり、実際に文献を読んだりできるデータベースがあります。これらのデータベースを紹介するとともに、それぞれの特徴や使い方を説明します。また、検索演習も行います。

■ ライブラリーにない資料の取り寄せ方

ライブラリーに所蔵していない雑誌文献や図書のコピー、あるいは図書そのものを取り寄せることができます。このサービスの手続きや注意点について説明します。

館員が薦める一冊

◎ 『ポピュラー・サイエンス』シリーズ

請求記号：420/116/1 ~ 配架場所：天白開架書庫M4階

常々、皆さんに利用していただきたいと思っている図書に、この『ポピュラー・サイエンス』シリーズがあります。250巻以上あるシリーズで、身近な話題から専門的な内容まで多種多様なテーマが科学を絡めて取り上げられています。化学式等も出てきますが比較的簡単な文章で書かれているので、まずは興味の持てるものからチャレンジしてみてください。

最近発行された中では、例えば環境問題に関心がある方なら、264巻の「環境ホルモンとダイオキシン—人間と自然生態系の共存のために—」などを読んでみてはいかがでしょうか？ また他にも、小学生の“かがく”を取り上げた262巻の「わくわく子どもかがく実験室」。動物好きの方なら、243・244巻の「動物たちの気になる行動(1)—食う・住む・生きる篇—、(2)—恋愛・コミュニケーション篇—」、241巻の「都市動物の生態をさぐる—動物からみた大都会—」をお薦めします。変わったところでは、文学作品や歴史文書からみた「化学的な」秘密保持の方法を紹介した、229巻の「機密保持と化学—紀元前から現代まで—」、SF・ミステリー作品・古典文学の中に登場する化学的な事柄を解説した、196巻の「化学と歴史とミステリー」などがあります。



知らなくてもどうってことはありません。でも、その現象の裏で起きていることを知ってみると、今までとは違った意識で世の中を見ることができるともかもしれませんよ。

ただの雑学？ 某TV番組のネタになる？ ……うん、そうかも……

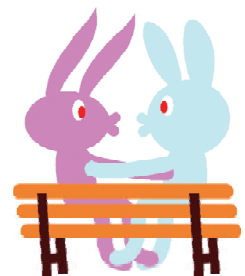
◎ DVD『恋のめまい愛の傷—烈愛傷痕—』

で華流に触れよう。そして、中国語を勉強しよう！

請求記号：778/87/1.2/DV186 配架場所：天白AVコーナー

『冬のソナタ』の韓流ブームに続き、これからは「華流」です。華流とは、台湾・中国・香港のエンターテインメントを指しますが、その筆頭は台湾ドラマです。華流の立役者は男性4人組みのF4（「エフフォー」と読む）。そして華流の代表作はそのF4が出演する『流星花園』です。日本でもすでに各テレビ局でこの流星花園、及び続編である流星花園2を放映していますので、ご覧になった方もいることでしょう。この流星花園、原作は日本の漫画です。台湾では日本の漫画が大人気で、このように日本の漫画を原作としたドラマは非常に多いのです。日本の文化が異国に親しまれているのは嬉しいことですね。前置きが長くなりましたが、今回ライブラリーで購入したDVD『恋のめまい愛の傷』は、この台湾の人気グループF4の一人「言承旭」が出演しているドラマ（やはり原作は日本の漫画）です。正直、流星花園に比べるとストーリー展開などかなり大雑把であるのは否めませんが、全数十回に及ぶ大作はとも大学空き時間などで見切れる作品ではないので、比較的短い時間で台流に触れられるこの作品を選んでみました。

ところで、台湾ドラマは大抵中国語（北京語）の字幕が入っているため、とても良い中国語の勉強材料になるんです。今回のDVDは日本語字幕も選択できますが、中国語を勉強したことのある方は是非、中国語字幕で見てくださいね。



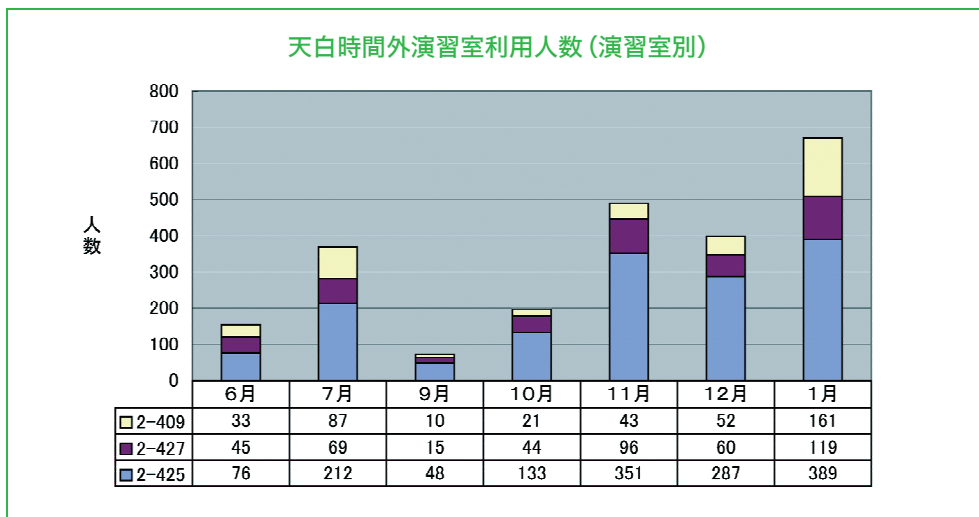
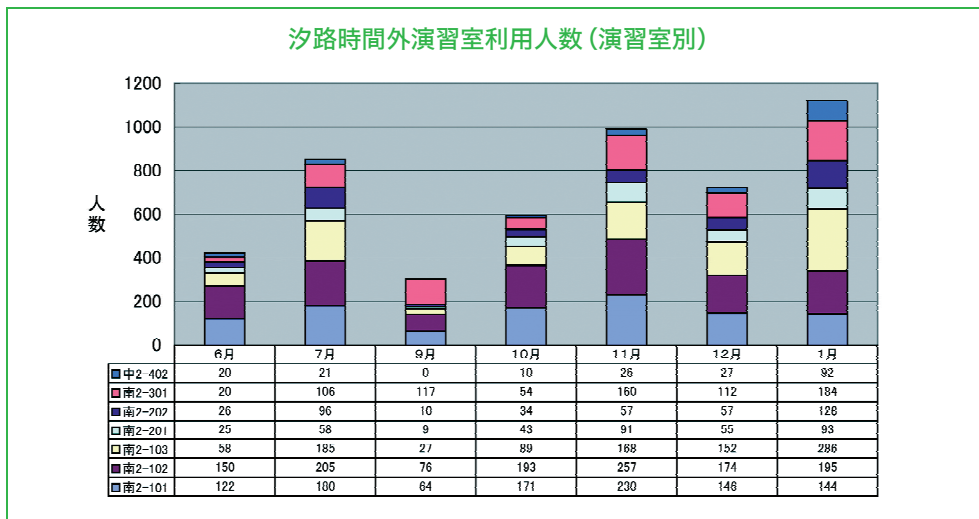
● 入館者数

夕路	時間内	時間外	計
4月	5,803	634	6,437
5月	6,967	915	7,882
6月	7,957	1,339	9,296
7月	12,022	2,494	14,516
8月	479	—	479
9月	3,107	234	3,341
10月	6,650	870	7,520
11月	6,470	950	7,420
12月	5,199	620	5,819
1月	7,350	1,039	8,389
2月	1,819	—	1,819
3月	1,811	—	1,811
計	65,634	9,095	74,729
年間開館日数(日)			244
1日平均入館者数(人数)			306

天白	時間内	時間外	計
4月	3,763	361	4,124
5月	4,501	375	4,876
6月	5,654	614	6,268
7月	6,126	621	6,747
8月	807	—	807
9月	2,298	135	2,433
10月	4,041	299	4,340
11月	4,930	486	5,416
12月	3,535	375	3,910
1月	3,711	372	4,083
2月	543	—	543
3月	395	—	395
計	40,304	3,638	43,942
年間開館日数(日)			265
1日平均入館者数(人数)			166

*時間外：17時以降の入館者

● コンピュータ共同演習室時間外利用者数



*時間外：17時以降(平成16年度の時間外開放実施期間 6～1月)

お知らせ

■教職員の相互利用に関する料金支払方法変更について

今年度より、「国立情報学研究所 ILL 文献複写等料金相殺サービス」に参加しました。そのため、文献複写等の料金の支払方法が一部変更になりました。

公費の場合 「ILL 文献複写等料金相殺サービス」参加館からの取り寄せ→「文献複写料金支払方法のご案内」と共に請求書（送付票）をお渡ししますので、予算執行票を起票していただき、1週間以内にライブラリーのカウンターへご提出ください。なお、6・9・12・3月末が国立情報学研究所の相殺締め日となっておりますので、予算執行票の起票期間が1週間に満たない場合があります。ご了承ください。

「ILL 文献複写等料金相殺サービス」非参加館からの取り寄せ→銀行や郵便局等での振込みとなります。文献受取時に現金でお支払いただいたのち振込みの受領書をお渡ししますので、予算執行票を起票していただき、会計課へご提出ください。

私費の場合 到着時に現金でお支払いください。領収書が必要な場合はご連絡ください。

■ライブラリーサービスの開放について ～名古屋女子大学中学校・高等学校へ～

学術情報センターでは、平成17年7月1日から高大連携の一環として、学校法人越原学園の教職員及び生徒の方々にライブラリーを開放することになりました。当初、制服を着た生徒の皆さんのライブラリーの利用に戸惑った方もいたかと思いますが、実施から2ヶ月が経過し、すでに風景の一部になったのではないのでしょうか？ 汐路ライブラリーでは、毎日のように中学生・高校生の姿を見ることができそうですが、図書の出借よりも、主に自習のために利用しているようです。一方、天白ライブラリーでは、地理的な条件もあつてか利用は数件にとどまっています。

学生の皆さんは後期の授業も再開し、レポートや試験のためにライブラリーを利用する機会が増えるかと思いますが、「親切」を念頭にライブラリーの開放にご協力ください。



■センターだよりの配布について

学術情報センターだより45号のアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。集計した結果とご意見を、今後のセンターだよりの参考にさせていただきます。なお配布方法を46号（今号）より変更し、Webでの公開を先行し、その後学内各所に印刷版を設置しますので、ご自由にお持ちください。印刷版は以下の場所に置いてあります。

汐路学舎 本館入口、受付、学生支援センター前学術情報センター掲示板、南2号館システムサービス掲示板、中央館2階ライブラリーサービスカウンター、中央館3階パソコン相談室カウンター、南5号館食堂内

天白学舎 受付、2号館入口、2号館地下1階食堂前学術情報センター掲示板、5号館3階ライブラリーサービス入口掲示板、5号館3階ライブラリーサービスカウンター

なお、Web版はライブラリーサービスのホームページ <http://libweb.nagoya-wu.ac.jp/t-dayori/tayori.htm> から閲覧することができます。

名古屋女子大学 学術情報センターだより 第46号 発行日：平成17年10月1日

発行：名古屋女子大学学術情報センター
〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町3-40

●ライブラリーサービス TEL (052) 852-9768
●システムサービス TEL (052) 852-1120